

ふるさとの風 睦月

—神宮の初春—

神々の宴



伊勢市立伊勢図書館 ふるさと文庫

あらたまの年を迎える朝。
東雲を茜色に染めて昇る日の出に手を合わせる。
太陽は万物の命のみなもと。
天照大御神は太陽の化身——。

初日に照らされたものすべてが淑気に包まれて、生まれたての表情をみせる。

ふるさとの風 睦月
神宮の初春

—神々の宴—

初春、早朝の凜とした空気の中、宇治橋大鳥居に一筋の光が差し込む。
神路山から昇った朝日に照らしだされた、五十鈴川の水面が金色に輝く。
その光は、新しい年、そして新たに始まる二十年を寿ぐかのよう…。

元日や 神代のことも 思はるる 荒木田守武

平成二十六年一月一日、神が新宮に遷られて初めての年が明けた。

午前零時、伊勢神宮神楽殿では初神楽が始まる。
太鼓が鳴り響き、君が代の大合唱。
恒例の倭舞、人長舞、そしてその年にふさわしいめでたい舞楽が二曲、神々しくも雅やかに奉納される。今年はこの遷宮を記念して作られた「斎庭舞」と、天皇即位の大礼後の饗宴で舞われる優美な武舞の「太平楽」である。
瑞気みなぎる神域には大晦日の宵から篝火が焚かれ、参道には年越し参りの人波が押し寄せ溢れんばかりの賑わいをみせる。

こうした喧噪をよそに、元日未明から「歳旦祭」が執り行われる。
祝詞に「新^{志伎}年始^及大御饌大御酒」と唱えるように、新しい年の初めを言祝ぎ、御饌・御酒を供える祭典は、元日午前四時に外宮、同七時に内宮で行われる。参列する神職は、大晦日から一晩、神域内の斎館で参籠に入り身を清め祭りに備える。そして、新年を迎えたばかりの深夜、潔斎した神職により、若水が汲まれ海川山野の幸からなる大御饌が、一年で最初に神に供えられるのである。

新年には次々と祭典が続く。

一月三日には、宮中と時を同じくして行われる「元始祭」。

天津日嗣^{あまつひつぎ}、皇統の元始を祝い、国家国民の繁栄を祈る。

一月七日、「昭和天皇祭遥拝」は、先帝が崩御された日に宮中皇霊殿で御親祭が行われるにつき、内宮第一鳥居内祓所でも遥拝式が行われる。

やがて松の内も終わり、初詣の人波がやや落ち着きをみせる一月十一日、伊勢神宮のすべての神々がつどう新年会が催される。

「一月十一日御饗」である。

この神事は、内宮の天照大御神、外宮の豊受大御神をはじめ、伊勢神宮百二十五社すべての祭神に神饗を奉るもの。

午前十時、内宮正宮御垣内四丈殿。

神職により供えられる御物^{おももの}は、伊勢海老や鯛などの海の幸、胡蘿蔔^{ごらふぶ}（人参）や蜜柑などの山の幸、御餅^{おんもち}、御飯^{おんい}、そして御塩^{みしお}と御酒。春の七草の芹も供えられ新春らしい豪華さである。

神々は、お食事のあと、舞楽を鑑賞され、くつろぎのひととき…。

御饗の後、午後一時、神楽殿横の五丈殿において、神宮楽師により舞楽が奉奏される。

演目は、恒例の「東遊^{あづまあそび}」。

駿河舞、東舞とも呼ばれるのは、東国地方の風俗歌と舞が京の都に伝わり、平安時代には宮中で舞われるようになったためであるとされる。

駿河の国の宇土浜に舞う天女の姿を模したといわれる舞は、その鄙びた魅力が貴族に愛され、『源氏物語』『枕草子』にも、東遊の好ましいことが記されている。

ことごとしき高麗^{こま}、唐土^{もろこし}の楽^{がく}よりも、東遊^{あづまあそび}の耳馴^なれたるは、なつかしくおもしろく、…

『源氏物語 若菜下』

舞は 駿河舞^{するがまが}。求子^{もとめご}、いとをかし。

『枕草子』

神へ捧げる舞が始まる。

楽人の奏でる、和琴^{わごん}、高麗笛^{こまぶえ}、篳篥^{ひちりき}の調べ。

歌方^{うたいかた}が手にした笏拍子^{しやくびょうし}の音と、歌声が、御殿に響き渡る。

舞人は、六名。小忌衣^{おみごろも}といわれる平安時代の衣装を身にまとい、腰には太刀、冠には山吹^{かざし}の挿頭花^{しやくづか}という花飾り。袍^{ほう}は、古来の青摺りで桐、竹、雉が描かれ清楚なものである。

楽の旋律ののってゆったりと典雅な舞を披露する。

途中、衣の片方の袖をはずすと瞬時に雰囲気が変わるのが見事。

厳かな中にも素朴でのびやかな趣の舞は、清々しく、新春を寿ぐのにふさわしい。

年に一度の神々の宴一。

美しい音色と優雅な舞楽の饗宴は、初詣の人々を古^{いにしえ}の世界に誘う。

神宮では、神々、自然、祭祀が、調和して悠久の時が流れる。

春・夏・秋・冬…。

四季折々の彩りの中で、祭りが古式ゆかしく繰り広げられている。

初春を寿ぐ神々の宴が終わるころには、日差しには春の兆しもちらほら…

今年も幸多き年でありますように。



図書館だよりNo.143 増刊 平成 26(2014)年 1 月 5 日発行

(編集・発行) 伊勢市立伊勢図書館 指定管理者/株式会社 図書館流通センター (住 所) 〒516-0076 伊勢市八日市場町 13-35
(電話) 0596-21-0077 (FAX) 0596-21-0078 (ホームページ) <http://iselib.city.ise.mie.jp/>

© 2014 mami ishikura